

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(1)地域資源の磨き上げと掘り起こし	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ウェルネスツーリズムの促進を図ります ○地域間の周遊性の向上を図ります ○多様な人材が協働して参加するコンテンツ開発に取り組みます 	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業	宝塚魅力体験事業

担当部局評価	B	評価の理由	令和3年度に引き続き、観光振興戦略に掲げる「ウェルネス」をキーワードに、市内事業者等が主体となり、市が伴走支援を行う官民一体となった観光ビジネスの創出に取り組んだ。令和4年度は、前年度に採択したが実施が間に合わなかった2コンテンツと、令和4年度に採択した2コンテンツの計4コンテンツの実証実験を行った。指標②の目標値を上回り、いずれのコンテンツも既存の地域資源を活用することで新たなコンテンツが創出されており、めざすまちの姿の実現に寄与している。また、アートによる観光まちづくり事業「TRAD」では、様々なイベントを通じて市内の周遊性の向上を図り、新たなまちのにぎわいの創出を図った。年度の前半ではオミクロン株が猛威を振るうなど、引き続きコロナ禍の影響は大きかったが、来宝者の増加には一定寄与しておりB評価とした。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		宿泊者数	↗	人	100,839	目標	136,250	138,000	139,750	141,500	143,250
		達成状況とその理由	全国旅行支援や県民割など国や県の施策と合わせて「たからづか宿泊割引事業」という市独自の施策を展開することで、指標を達成した。観光需要は回復傾向にあるが、コロナ禍の影響はまだまだ続いている。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	コンテンツ開発数	↗	コンテンツ	-	目標	1	1	1	1	1	
		達成状況とその理由	令和3年度は3つのコンテンツを採択したが、コンテンツの季節性から、1つのコンテンツしか実施できなかった。令和4年度は、残りの2コンテンツと、新たに採択した2コンテンツの計4コンテンツを実施し、目標を達成した。								
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	<p>指標は達成しているが、今後、開発したコンテンツが観光コンテンツとして定着するためには、事業の継続性が不可欠であり、事業者の意欲に大きく左右される。</p> <p>また、その魅力が市内外、国外へ伝わり、訪れる人が増加するためには、コンテンツをより大きなものに成長させていく必要がある。</p> <p>さらに、市北部地域など新しい観光資源や人材の掘り起こしを進め、意欲的な事業者間の輪を構築していく必要がある。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>市内事業者向けにワークショップを実施することで、民が主となり、行政が伴走支援をしながらコンテンツ開発を実現する仕組みづくりを浸透させ、新しい観光資源や人材の掘り起こしといった課題の解消に取り組んでいる。</p> <p>実証の振り返りを通じた改善点の洗い出しや、広報への協力等、経済的な支援以外の部分でフォローアップを行うことで、事業者のモチベーション維持するとともに、コンテンツの成熟や定着を図る。</p> <p>また、前年度以前に採択された事業者とのマッチングを検討することで、コンテンツの幅を広げ、成長を促す。</p>
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表											
施策分野	6-1 観光										
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。										
施策	(2)積極的な誘客に向けた国内外への情報発信										
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-									
施策の方向性	○積極的な誘客の展開に取り組みます ○観光情報(資源)の積極的な発信に取り組みます ○観光資源の利用に向けた市民へのPRに取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	観光振興・宣伝事業					新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業					
担当部局評価	B	評価の理由	令和5年度に、県下で実施される「JRデスティネーションキャンペーン(JRDC)」を好機と捉え、誘客に向けて情報発信に取り組んでいる。令和4年度はプレキャンペーンとして実施され、特別列車「WEST EXPRESS 銀河」がJR宝塚駅へ停車した際、乗客へのおもてなしをすることで、積極的な誘客に取り組んだ。市国際観光協会、ひょうご観光本部との連携を密にし、プレキャンペーンでは、県下3つの重要コンテンツの一つに本市が選定され、積極的な誘客を行った。一方で、新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業の一環として、WEBを活用した観光・シティプロモーションに取り組み、WEB媒体で市内の魅力発信に努めたほか、紙媒体でも市外へ発信することで、積極的な情報発信を行った。①②ともに目標を達成していないためB評価とした。								
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		観光入込客数	↗	人	6,623,755	目標	11,864,000	11,889,000	11,914,000	11,939,000	11,964,000
		実績	8,627,599	10,149,022							
	達成状況とその理由	全国旅行支援や県民割など国や県の施策により、観光需要は回復傾向にあるが、コロナ禍の影響はまだまだ続いている。									
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		外国人観光客数	↗	人	-	目標	16,699	16,843	16,988	17,133	17,277
		実績	582	2,596							
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症による海外からの入国制限により減少した。なお、目標値はコロナ禍以前の数値を基準として掲げたものである。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
市国際観光協会ホームページへのアクセス件数		↗	件	277,132	目標	300,000	325,000	350,000	375,000	400,000	
実績		367,258	428,755								
達成状況とその理由	全国的な旅行需要の回復や中止していたイベントの再開より、情報を求める需要が高まったものと考えられる。										
施策実現のための課題	JRDCにおいて本市のコンテンツが重要コンテンツに選ばれているが、県下の多くのコンテンツの中に、本市が埋もれることがないように取り組む必要がある。また、令和6年度には「市制70周年」が、令和7年には「大阪・関西万博」が控えており、中・長期的な視点での施策展開が必要である。また、アフターコロナにおいてはインバウンドについても増加が見込まれるため、いかに国外へ向けて本市の存在をアピールするか、事業者等と連携した取組が必要である。			課題を踏まえた今後の取組	令和4年度は、積極的な情報発信のため包括連携協定先と連携することで、市外に広く情報発信を行った。本市の地域資源を活用し、魅力あるコンテンツづくりを進めるとともに、市と市国際観光協会が連携し、県やひょうご観光本部等への働きかけを継続して行い、積極的な情報発信を行う。インバウンドに対する取組は、北部地域の自然や縁起物づくり等を素材としてコンテンツ開発を行っており、モニターツアーでの意見を参考に、さらなる磨き上げを図る。また、国の補助金を活用しながら、観光関連事業者への対策、回復傾向にあるインバウンドへの対応準備を継続していく。						
行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外										

施策評価表

施策分野	6-1 観光	
めざすまちの姿	○既存の地域資源が活用されるとともに、新たな魅力も創出され、その魅力が市内外・国外に伝わり、訪れる人が増えている。	
施策	(3)持続可能な観光振興に向けた環境整備	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○来宝者に向けたインフラ整備に取り組みます ○観光に携わる関係者の合意形成と人材の育成を図ります ○観光消費額拡大を目指します	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	温泉施設維持管理事業	観光施設維持管理事業
	観光振興・宣伝事業	新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業
	宝塚魅力体験事業	

担当部局評価	B	評価の理由	温泉施設や観光施設については、点検や修繕を行うなど、安定した温泉供給や適切な施設管理に努めた。また、県や市国際観光協会と連携し、市内宿泊事業者向けにユニバーサルツーリズムに関する勉強会を開催するなど、誰もが安心して旅行ができる基盤づくりに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症対策観光事業者支援事業の一環として、コロナ禍により多大な影響を受けた市内宿泊施設の事業継続支援を目的とした事業においては、予算消化率は99%を超えるなど、市内外問わず多くの方に市内宿泊施設の利用促進を図った。観光消費額について目標には達していないものの、観光需要回復に向け積極的な事業展開を行ったことからB評価とした。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		観光消費額	↗	百万円	47,304	目標	88,316	88,503	88,690	88,878	89,065
		実績			61,780	未確定					
		達成状況とその理由	令和4年度の実績は未確定(確定時期:10月頃)であるが、引き続きコロナ禍の影響を大きく受けた。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—		-	目標						
		実績									
		達成状況とその理由									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		実績									
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、観光に対する考え方やあり方が目まぐるしく変化している。今後はアフターコロナを見据えた対応が必要であり、市民ボランティアの育成や事業者間の連携づくりには一定の配慮を継続する必要がある。 また、市だけでは実施できない大規模な支援については、今後も国の補助金を有効かつ効率的に活用しながら実施する必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	観光振興戦略で掲げる「ウェルネス」の一翼を担う温泉や観光施設を維持管理しながら、景観保全など観光振興に向けた環境整備をすすめる。 アフターコロナへ向けた対応などについて、国の補助金などを活用して、宿泊施設をはじめとする観光関連事業者への支援を継続する。 市民ボランティア等については、定期的な意見交換や勉強会の実施により、活動の輪が縮小しないよう努める。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(1)新たな事業の創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○起業しやすい土壌づくりに取り組みます ○創造性の発揮による新事業創出を支援します ○次世代の創造性豊かな担い手育成に取り組みます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	新事業創出総合支援事業	

担当部局評価	B	評価の理由	市内で起業や創業に向けた機運醸成に向けて、宝塚商工会議所や起業支援を行う起業家等支援施設との連携した取組により、起業した事業者は46者となり、指標を達成することができた。 また、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する経営手法であるデザイン経営の導入や新事業創出に向けた支援により、市内事業者間の連携が生まれている事例もあり、指標は達成していないものの、他の市内事業者への波及効果が出せるようデザイナー等経営革新に必要な人材と事業者の繋ぐことで、事業継続、発展を支援した。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		起業した事業者数	↗	者	31	目標	32	34	36	38	40
達成状況とその理由		商工会議所における創業支援等事業での実績が大幅に増加したため、目標値を達成した。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	デザイナー等経営革新に必要な人材とマッチングした事業者数(累計)	↗	者	-	目標	3	6	9	12	15	
達成状況とその理由		デザイン経営実践支援委託業務により、デザイン経営を指南する事業者が令和3年度に支援した3事業者を継続して支援するとともに、令和4年度は新たに市内の2事業者を支援した。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	コロナ禍が徐々に落ち着きを見せる一方、エネルギー等物価高騰によるコスト上昇分の価格転嫁が課題となっており、経営継続が厳しくなる傾向にある。一方で、補助制度や支援制度を活用し、経営改革や事業継続に向けて動き出している事業者も出てきている。直接的な支援対象となる事業者の取組事例を他の事業者へ波及効果が出せるよう、起業、創業や新事業創出等による事業継続への機運醸成を市域全体に図る仕組みを確立する必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	起業家等支援施設と連携し、国などの制度を周知するとともに、令和4年度には、宝塚商工会議所と連携しての創業スクールの実施や大学での起業機運醸成に向けたセミナーを開催するなど、市全体で起業機運の醸成を図った。また、令和4年度には、デザインの力を活用し、ブランド価値の創出が期待されるデザイン経営実践支援として、市内事業者2者に支援を行った。さらに、刻々と変化する経済社会情勢に適合した新ビジネスモデル等創出支援補助金を2者に交付した。引き続き、デザイン経営を取り入れ、経営改革や付加価値創出、経営継続に意欲的な事業者と連携し、市内事業所の活性化を図っていく。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(2)まちの活性化	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○個店からエリア全体の魅力向上を図ります ○既存事業所の市内立地継続支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	商工業振興事業	企業活動支援事業
	産業振興事業	

担当部局評価	B	評価の理由	市内全エリアを対象に魅力ある個店の出店を促し、市内全域のにぎわい創出及び活性化を図るため、令和3年度から店舗等魅力向上チャレンジ支援補助金を創設した。(令和3年度は5件、令和4年度は6件の補助を実施)企業活動支援補助金により、既存事業所の操業環境の改善や事業拡張を支援し、市内の雇用創出と産業基盤の強化に努めた。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		1店当たり年間商品販売額	↗	百万円	186 (H28)	目標	200	200	200	200	200
達成状況とその理由		前回調査と比較すると、年間商品販売額が約5%減少、事業者数が約3%減少しており、目標値を達成することができなかった。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	1事業所当たり製造品出荷額等(製造業のみ)	↗	百万円	-	目標	1,250	1,250	1,250	1,250	1,250	
達成状況とその理由		前回調査時と比較すると、製造品出荷額等総額は約17%上昇している一方で、事業所数は8%減少したことから、目標値を達成することができた。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	<p>コロナ禍が徐々に落ち着きを見せる一方、エネルギー等物価高騰によるコスト上昇分の価格転嫁が課題となっており、経営継続が厳しくなる傾向にある。また、市内既存事業者の事業継続に対するフォローが手薄になっており、既存事業の見直しを検討する必要がある。商工会議所とも連携を密にし、市の補助制度等に留まらず、国や県、金融機関の融資制度など活用できる制度の案内にはより一層努めていく。</p>	<p>課題を踏まえた今後の取組</p> <p>商工、観光、農政の各担当が連携を取り、市内事業所の状況把握に努め、効果的な制度や施策の展開を図っていく。令和4年度には、エネルギー等物価高騰への対策として、宝塚市物価高騰等対応小規模事業者応援一時金を実施した。また、コロナ禍における対策として、改装促進補助金や商店街お買い物券ポイントシール事業、キャッシュレスポイント還元事業等の実施した。今後、エネルギー価格高騰の影響を受ける事業者への支援を検討していくとともに、既存事業の見直しを行い、事業者の新規参入や市内既存事業者の他市への流出防止と雇用確保を図り、商工業基盤の強化と発展を目指していく。</p>
------------	--	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-2 商工業	
めざすまちの姿	○起業・創業が盛んになり、地域特性を生かした宝塚らしい産業が成長し、その魅力が発信され、市内で買い物をする人や働く人が増えている。	
施策	(3)宝塚ブランドを生かした魅力創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○シビックプライドの醸成による地域内経済循環の向上を図ります ○商工業施策と文化芸術施策の連携を促進します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	宝塚ブランド発信事業	

担当部局評価	B	評価の理由	コロナ禍により遠のいていた物販等イベントが徐々に再開され、令和4年度は3回出展し、「モノ・コト・宝塚」選定品をPRすることができた。あわせてムック本vol.6の発刊や、SNS(Twitter及び新たに開設したInstagram)により「モノ・コト・宝塚」のPRに努めている。その他、子ども議会での提案に基づく和菓子のPRリーフレットを作成し市内小中学校へ配布した。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		地域経済循環率	↗	%	59.9 (H27)	目標	63	63	63	63	63
		達成状況とその理由	地域経済循環率は複数の調査結果のデータを用いて積算されるもので環境省が所管しており、現在公表されている最新値である平成30年度の現状値を実績とした。								
						実績	59.9 (H27)	60.0 (H30)			
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—		-	目標						
		達成状況とその理由									
						実績					
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
		達成状況とその理由									
						実績					

施策実現のための課題	コロナ禍において、「モノ・コト・宝塚」の選定資源をはじめとする特産品や商品を対面でのPRする機会が減少し、SNSを活用したPRやリーフレットを作成、活用することで、魅力発信に努めた。数ある「モノ・コト・宝塚」選定資源を持続可能なものにするため、より効果的になかつ継続的なPRが求められる。	課題を踏まえた今後の取組	宝塚ブランド「モノ・コト・宝塚」の選定品の魅力を伝えると同時に、「モノ・コト・宝塚」自体のPR活動にも同時に注力する。商工、観光、農政、北部振興などの担当が相互に連携するとともに、宝塚の魅力発信を継続していく。「モノ・コト・宝塚」の選定にあたっては、より多くの事業者等を支援するために選定候補を広く募集しているものの、今後、「モノ・コト・宝塚」自体の継続性を高め、魅力性向上のためにも、より効果の高い募集方法や選定方法について研究していく。
------------	--	---------------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(1)農業の持続的な発展	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○新規就農者や集落営農組織など地域農業の担い手を確保します ○地域に根付いた農業生産を推進します ○農地や農業用施設の適正な維持管理に努めます ○有害鳥獣による農作物被害の減少を図ります ○都市農業の振興を図ります 	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	農業振興事業	
	新規就農者確保事業	
	農業委員会事業	
	林業振興事業	

担当部局評価	B	評価の理由	集落営農組織への支援は、地域計画により設立する方向性を打ち出した意欲のある集落から順次進めていくこととし、組織数の増加には至らなかったが、有害鳥獣対策については、被害額は増加したものの、集落への獣害対策への意識醸成による被害報告の増加に起因しており、加えて防除柵の設置距離やシカ・イノシシの捕獲数は増加したことからB評価とした。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		集落営農組織数	↗	団体	5	目標	5	5	5	6	6
達成状況とその理由		R12に10組織を目指しており、令和6年度末までに策定する地域計画により、設立する方向性を打ち出した集落に対して、設立に向けた支援を実施していく。									
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		農地集積率	↗	%	-	目標	12	12	14	14	16
達成状況とその理由		認定農業者や新規就農者、集落営農組織などの担い手への利用権の設定、所有権移転などが進み、前年度と比較し数値は向上したが、目標数値までには至らなかった。									
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		有害鳥獣による農作物被害額	↘	千円	4,140	目標	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
達成状況とその理由		各集落及び農家の被害に対する意識が向上し、報告の件数が伸び、また昨年度に比べ、高収益作物の被害が多く確認されたことから被害実績額が上昇した。									

施策実現のための課題	<p>高齢化による耕作者の不足による遊休農地増加が懸念されることから、新規就農者の確保や担い手への農地の集約・集積を推進していく必要がある。また、農地等の適切な維持管理のための集落の活動を後押ししていく必要がある。</p> <p>有害鳥獣からの農作物被害の防止に関しては、引き続き各集落及び農家に対する啓発が必要である。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>地域計画策定に向けて、集落内の話し合いにより、どのように担い手へ農地を集約・集積していくかを検討してする。また、集落ごとに農業における強みなどを整理し、新規就農者として求める人材像を示していく。さらに、引き続き国の交付金等を活用し、農地等の適切な維持管理のための集落の活動を後押ししていく。</p> <p>有害鳥獣防除対策に向けて、集落や農地への侵入防止柵の設置、柵のメンテナンス、侵入する鳥獣の適切な確保などへの支援を引き続き実施していく。</p>
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(2) 農業の新たな価値創出の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○「農」を支える交流や農村への移住・定住などを促進します ○農商工連携や異業種交流の取組を推進します ○農福連携など農地の新たな活用に取り組みます ○スマート農業や再生可能エネルギーなど新技術の導入を進めます	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	ダリアで彩る花のまちづくり事業	

担当部局評価	B	評価の理由	コロナ禍で園芸分野の需要が高まったが、令和2年度、3年度に続き、初心者でも自宅で園芸を楽しめる「おうち園芸」を実施した。拠点となった園芸振興センター(あいあいパーク)では、コロナ禍で一時的に落ち込んだ売上回復に寄与した。ダリアのPRやダリア生産の担い手育成、特産品開発といった取組の支援を実施し、球根の出荷や切り花、加工品の販売などダリア生産に係る売上高増に寄与した。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		「農」に関する「モノ・コト・バ宝塚」選定資源数	↗	件	29	目標	35	35	38	38	41
		実績	34	34							
		達成状況とその理由	審査会は概ね2年に1回開催されており、令和3年度は実施したが、令和4年度は選定を実施していない。								
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		ダリア生産に係る売上高	↗	千円	-	目標	41,000	42,000	43,000	44,000	45,000
		実績	48,000	45,000							
		達成状況とその理由	令和3年度と比較すると生育不良の影響で球根の出荷級数が落ち込んだものの、切り花等の出荷額が令和2年度時点よりも増加し、目標値は達成している状況。								
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		-	—			目標					
		実績									
		達成状況とその理由									

施策実現のための課題	移住・定住について、新規就農者が就農地に近い住居を希望する場合は適切に関係機関を案内していく。 農商工連携の取組については、引き続き農業振興施設の加工施設を適切に維持管理し、市内農作物の6次産業化に資するよう努める。 ダリア産業については、継続的な生産体制確保に向けた支援の実施とともに、生花等を活用したPRや特産品開発支援といったダリアの高付加価値化につながる取組を検討していく必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	新規就農希望者の意向により、必要であれば、西谷地域の空き家マッチングの取組を紹介していく。 引き続き植木まつりなどにおいて、異業種の出展を促進し、花き・植木事業者と異業種との交流を実施していく。 ダリア産業については、生産事業者である「株式会社佐曾利園芸組合」と連携した支援のあり方を検討するとともに、市内外の公共施設や商業施設と連携し、本市の地域資源としてのダリアの知名度向上を図る。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-3 農業	
めざすまちの姿	○多くの人が身近に「農」に触れるとともに、農業を志す人が増え、「花き・植木」や「西谷野菜」などの農産物や加工品のブランド化が進んでいる。	
施策	(3)「農」に触れ「農」を知る機会の創出	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○「農」に触れる機会の創出を図ります ○「農」に関する普及啓発活動を推奨します ○「地産地消」の取組の支援を行います ○地域の特性を生かした観光農業を活性化します	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	市民農園事業	
	農業振興施設管理事業	
	園芸振興事業	
	長谷牡丹園管理運営事業	

担当部局評価	B	評価の理由	土地所有者の高齢化等を理由に閉園する農園が多かったため、市民農園の利用者数が減少した。貸出希望する需要は継続的に一定数あるため、貸し出しできる農園の増加の検討も必要となってくる。コロナ禍においても3年ぶりとなる植木まつりを開催したり、「おうち園芸」の継続実施により、本市の地場産業である園芸(花き・植木)産業へのPRや売上回復に努めた。長谷牡丹園については、令和4年度から新たな指定管理者による管理が始まった。牡丹の栽培管理の知識を深めるための専門家を招いての研修等を行いながら、魅力向上に向けて取り組んでいる。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		市民農園利用者数	↗	人	577	目標	620	640	660	680	700
		実績	551 483								
		達成状況とその理由	高齢化や体調などにより貸農園の維持管理が困難になり閉園する農園が多かったため利用者数が減少した。								
成果指標	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		「農」に関する講習会等参加者数	↗	人	-	目標	900	800	850	900	950
		実績	840 662								
		達成状況とその理由	委託業務の見直しにより、受託先が受け入れられる学校数が減少したため。								
成果指標	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		長谷牡丹園入園者数	⇒	人	0	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
		実績	315 4,096								
		達成状況とその理由	晴天にも恵まれたことから、開園してからの牡丹・芍薬の開花期間が短く閉園が早まったことや、コロナ禍の影響もあり、目標には達しなかったものの、2年ぶりに本格開園ができたため、入園者数を回復することができた。								

施策実現のための課題	高齢化等により、貸農園の維持が困難になり閉園するケースがあった。一方で、民間主体により新規に開設するケースがあった。園芸振興施設(あいあいパーク)では長期的に見ると利用者減少傾向にあり、施設の魅力発信や新たな顧客層を開拓する必要がある。長谷牡丹園については、指定管理者との連携により、市内外へのPRや、閉園期間中の施設の活用により、来園者数の増に向けて取り組んでいく。	課題を踏まえた今後の取組	市民が「農」に触れる機会を維持していくため、引き続き農地維持のための相談があった際は、貸農園の開設を促していく。植木まつり、オープンガーデンフェスタ、朝市やたからの市、西谷収穫祭などソフト事業を充実させ、各施設への来場者や売上に繋げていく。また、新たな顧客層の開拓に向け、異業種との交流等、検討、促進していく。また、園芸振興センター及び農業振興施設の指定管理事業において、新たな自主事業の検討を促す。長谷牡丹園については、指定管理者と情報共有しながら、魅力向上に向けて取り組んでいく。
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(1)誰もがいきいきと働くための就労支援	
総合戦略での位置付け	基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり

施策の方向性	○雇用・就業促進と安定のための支援に取り組みます ○潜在的に就労を希望する人へのきめ細やかな支援に取り組みます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	ワークサポート宝塚運営事業	
	就労支援事業	

担当部局評価	A	評価の理由	第2次労働施策推進計画に基づき、「誰もが自分に合った働き方ができるように支援し、いきいきと働くことができる環境の実現を目指す」ことを基本理念として進めた。そのため、国や県をはじめ、シルバー人材センター、商工会議所、民間企業などとも連携を深め、特に就労実現に課題を抱える求職者への就労支援に努めた。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		ワークサポート宝塚における就職率	↗	%	38.2	目標	40.2	37	42.5	42.5	42.5
達成状況とその理由	ワークサポート宝塚は、ハローワークと共同で運営する施設で、職業相談や職業紹介等を実施している。令和3年度と比較すると新規求職者が減少したものの、就職件数自体は増加したことにより、就職率は目標を達成することができた。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	若者しごと相談利用者の就職率	↗	%	-	目標	14.2	14.2	14.2	14.2	14.2	
達成状況とその理由	令和3年度と比較すると相談件数は減少したものの、就職件数自体は増加したことにより、就職率は目標を達成することができた。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	=	—			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	雇用・労働を取り巻く環境は、コロナ禍をはじめとする社会経済情勢がめまぐるしく変化し、業種や業態によっては人手不足が生じている一方で、多様な働き方へのニーズは高まりをみせ、求職者と企業との間にミスマッチが生じており、ポストコロナに向けた雇用のマッチング支援が求められている。	課題を踏まえた今後の取組	ハローワーク西宮、ワークサポート宝塚、シルバー人材センター、NPO法人を含む民間事業者などの関係機関との連携を深め、若者、高齢者、障碍(がい)者や女性など市民に寄り添い、就労に困難や課題を抱える方々への就労支援を展開する。求職者と企業とのミスマッチの解消に向けて、一部事業では、就職予定先の職場環境を事前に支援者が確認し、求職者に共有する取組も実施しており、可能な範囲で継続していく。
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表											
施策分野	6-4 雇用・労働環境										
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。										
施策	(2)働く場の創出と多様な働き方の実現										
総合戦略での位置付け	基本目標1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり					基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり					
施策の方向性	○新たな就労機会の掘り起こしに取り組みます ○ワーク・ライフ・バランスの実現や新しい働き方の定着に向けた取組を促進します										
施策を構成する主な事務事業	高年齢者就業機会確保事業 労働行政事業【再掲】										
担当部局評価	B	評価の理由	本市の昼夜間人口比率は、県平均と比べ低い割合となっており、まちの活性化のためには市内で雇用を創出し、維持していく必要がある。コロナ禍が長引いており、廃業や休業に追い込まれないよう、国や県の施策を含む商工業振興施策と組み合わせて、雇用を守る取組を進めた。								
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		市内従業者数	↗	人	54,498 (H28)	目標	63,400	63,400	63,400	63,400	63,400
		達成状況とその理由	実績は経済センサス活動調査(令和3年度に実施)による把握となり、当該調査結果が未公表のため令和4年度は現状値を実績とした。調査結果が公表され次第、実績値を更新する。								
		指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
	②	昼夜間人口比率	↗	%	-	目標	82	82	82	82	82
	達成状況とその理由	直接的な要因は不明であるが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためのステイホーム施策も増加した一因だと考えられる。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
	有給休暇を80%以上取得している人の割合	↗	%	20.3 (R1)	目標	49	49	49	49	49	
	達成状況とその理由	実績は令和6年度に予定する労働実態調査による把握となるため令和4年度は現状値を実績とした。次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。									
	④	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
	シルバー人材センター会員の就業率	↗	%	61.4	目標	61.7	62	62.3	62.6	62.9	
	達成状況とその理由	会員数は前年度に比べ増加したものの、請負における就業実人員数が減少し、就業率の低下につながった。									
施策実現のための課題	国においては、法令や制度を整備し、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた支援を行っており、本市においても労働者や事業所へ制度の周知と啓発、仕事と生活の両立支援を推進する必要がある。市内の多くが中小・小規模事業者、個人事業主であり、昨今のエネルギー等価格や物価の高騰が経営基盤を危うくさせていることから、雇用の創出に加え、ワークライフバランスの周知・啓発の効果が図り難い状況である。				課題を踏まえた今後の取組	テレワークや時差出勤の導入、ICT技術利活用は、労働者にとっては、ワーク・ライフ・バランスの更なる実現、使用者にとっても生産性向上などのメリットがあり、ポストコロナに向けて多様な働き方の実現の支援を行っていく。市HP、商工会議所、NPO法人等を通じて、周知と啓発を図るとともに、宝塚市雇用促進連絡協議会におけるセミナーや講演会のテーマとして取り上げていく。その他、シルバー人材センターと連携してニーズに合った就労機会の創出や、市内の商工業事業者への支援、農業、観光振興を推進することで、新たな雇用機会を生み出す。					
行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外										

施策評価表

施策分野	6-4 雇用・労働環境	
めざすまちの姿	○誰もが自分に合った働き方で、いきいきと働くことができる環境が実現されている。	
施策	(3)労働問題の防止と解決に向けた環境づくり	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	○適正な労働環境の確保に向けた取組を促進します ○相談窓口の周知・他機関との連携に取り組めます	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	労働行政事業	

担当部局評価	B	評価の理由	労働者と事業主は、本来、対等な立場であるが、トラブル発生時には、労働者が弱い立場に置かれることが多くあり、ハラスメントなど労働者間でのトラブルも依然として存在している。トラブルを未然に防ぐ啓発を行うとともに、トラブル発生時に相談できるよう、昨年度に引き続き労働問題相談を実施した。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		国の総合労働相談コーナーの認知率	↗	%	25.3 (R1)	目標	50	50	50	50	50
達成状況とその理由	実績は令和6年度に予定する労働実態調査による把握となるため令和4年度は現状値を実績とした。次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。										
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	苦情(ハラスメント)相談窓口を設置している事業所の割合	↗	%	-	目標	77	77	77	77	77	
達成状況とその理由	実績は令和6年度に予定する労働実態調査による把握となるため、次回の労働実態調査の結果により実績値を更新する。										
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値 (R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	市で実施している労働問題相談については、市広報誌やホームページ、エフエム宝塚で周知しており、毎月一定数利用いただいている。また、他の相談機関についても、市ホームページで周知し、問い合わせがあった際には各相談機関へ誘導している。 一方で、市民の各相談機関の認知度の確認は実施できていない。	課題を踏まえた今後の取組	市では、労働問題相談を実施するほか、労働基準監督署、社会保険労務士会などの関係機関の窓口へ適切につなぐとともに、引き続き周知に努める。また、公共職業安定所、労働基準監督署、県、シルバー人材センター、宝塚商工会議所などと連携し、相談の内容に応じて、それに適した相談先へつなげていく。 また、令和6年度に実施予定の労働実態調査で認知度について確認する。
------------	--	--------------	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(1)文化芸術に触れ、創造する喜びを実感できる環境づくり	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○文化関連施設の有機的連携(協働)を推進します</p> <p>○誰もが文化芸術に触れ、楽しめる環境づくりに取り組みます</p> <p>○いつでも文化芸術に親しめるよう情報発信に取り組みます</p> <p>○子どもをはじめ市民の創造性を育みます</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	文化芸術センター・庭園管理運営事業	
	手塚治虫記念館管理運営事業	

担当部局評価	B	評価の理由	文化芸術センターにおいては、有料企画展を4回開催するとともに、他市で開催されていた団体展等を数多く誘致する等、芸術や宝塚に対する関心の向上に取り組んだ。また、工作や園芸ワークショップ、ギャラリートークなど、子どもから大人向けの幅広い分野のイベントを開催したほか、月1回のマルシェを実施し、地域の活性化に向けた取組を推進した。隣接する手塚治虫記念館、文化創造館と連携した取組を進め、エリア一帯で事業を展開することで、各施設との相乗効果も認められる。指標①の目標は大きく上回ったが有料企画展の入場者やパートナー会員の減など課題もあるためB評価とした。
--------	---	-------	---

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		文化芸術センター及び庭園の来場者数	↗	人	452,885	目標	480,000	510,000	640,000	680,000	700,000
		達成状況とその理由	気軽に利用できるライブラリーや庭園(公園)を利用する方の増加とともに、貸館での催しの実施回数も増加したことで来場者が増加し、目標値を上回った。								
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	「文化芸術活動によく親しんでいる」と回答した市民の割合	↗	%	-	目標	26	-	28	-	-	
	達成状況とその理由	令和4年度は市民アンケート実施なし。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により日常の活動が行えなかったことから、現状値を下回った。通常の活動に戻る施策を講じているが、コロナ禍以前には戻っていない状況であった。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
	達成状況とその理由										

施策実現のための課題	<p>文化芸術センターの来場者は目標を大きく上回り認知度は向上してきているが、有料企画展の入場者やパートナー会員は目標を下回っている。また、気軽に利用できるライブラリーや庭園(公園)を利用する方が多いが、施設のことは知っていても2階のメインギャラリーで実施している企画展は知らないなど情報発信不足もあり、文化芸術に対する市民ニーズを十分に捉え切れていない状況である。</p>	課題を踏まえた今後の取組	<p>メインギャラリーでの有料企画展への入場者やパートナー会員が目標を下回っており、指定管理者とも課題意識を共有し、企画展の内容の再検討や魅力ある関連イベントの実施などに取り組んでいく。</p> <p>また、現在実施している利用者アンケート等の充実を図り、市民ニーズの把握に努め、ホームページやSNSでの発信を強化するとともに、チラシ等の各戸配布など、市民への周知に努める。</p> <p>さらに、文化芸術センター、手塚治虫記念館、文化創造館の3館連携による取組を継続し、エリア一帯で「宝塚文化の創造・発信」を図っていく。</p> <p>令和5年度には令和7年度からの指定管理者の選定を行う。</p>
------------	---	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(2)文化芸術により人と人がつながる取組の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○活動カテゴリを越えた交流や連携の促進を図ります</p> <p>○地域間交流を継続させ、推進します</p> <p>○人材や市民組織(団体)の育成を図ります</p>	
--------	--	--

施策を構成する主な事務事業	文化振興事業	

担当部局評価	B	評価の理由	新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで文化芸術活動が再開され、後援許可事業数が増加した。また、中止となっていた都市間交流(大分市、浜松市)の実施や高校生美術部展などの開催、文化芸術活動再開支援事業補助金等による支援、ストリートピアノの設置など多岐にわたり市民の文化活動を支援することができた。指標①は目標を達成したものの、指標②が目標を達成していないためB評価とした。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		協働による文化芸術関連事業数	↗	事業	65	目標	90	115	140	150	164
達成状況とその理由		新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着いたことで文化芸術活動が再開される傾向にあり、目標値を上回った。									
②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	文化芸術関連の市民ボランティアの登録者数	↗	人	-	目標	175	205	235	265	300	
達成状況とその理由		従前からの市民ボランティアの高齢化に加えて、コロナ禍からの回復に向けての人材育成が進んでいないことから、登録者数が減少したと思われる。									
③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
	-	—			目標						
達成状況とその理由											

施策実現のための課題	文化芸術活動が再開される状況下において、関係部局や文化財団と連携を図りながら、より具体的な施策展開が必要である。また、市民の文化芸術活動のさらなる支援を行い、活動の担い手を増やしていくことも必要である。	課題を踏まえた今後の取組	コロナ禍において中止となっていた様々な事業が再開されており、コロナ禍以前の実績にまで戻るよう市民や団体等と協働で行う事業について積極的に働きかけることで実施事業数の増加を図る。また、高校生美術部展を開催し、当事者である高校生に事業企画段階から参画いただくことで、次世代の文化芸術活動の担い手育成につなげる。
------------	---	--------------	---

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表

施策分野	6-5 文化・国際交流	
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>	
施策	(3)文化芸術により成長を続けることができる取組の推進	
総合戦略での位置付け	基本目標3 活力あふれる、創造性豊かなまちづくり	-

施策の方向性	<p>○市民の文化芸術活動などの支援の充実を図ります</p> <p>○文化芸術の持つ創造性を生かし、他の分野との有機的連携を進めることにより、地域の社会課題解決や活性化の取組を推進します</p>	
--------	---	--

施策を構成する主な事務事業	文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール)管理運営事業	宝塚文化創造館(宝塚音楽学校旧校舎)管理運営事業
	文化振興事業	

担当部局評価	B	評価の理由	指標①②ともに、新型コロナウイルス感染症拡大対策の制限が緩和されたことで、前年より数値は伸びたが目標には届かなかったため、B評価とした。
--------	---	-------	--

成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
		文化施設(ベガ・ホール、ソリオホール、宝塚文化創造館)の利用率	↗	%	60.1		目標	65	68	71	72	73
		実績	65.9	67.5								
	達成状況とその理由	制限が緩和されたことで昨年度より実績を伸ばしたが、新型コロナの再拡大を懸念して活動を自粛する利用者もあり、目標値を達成できなかった。										
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
		観光、産業、教育など、他分野と連携した取組数	↗	事業	-		目標	32	49	66	83	100
		実績	30	47								
	達成状況とその理由	新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで、中止していた事業を再開したほか、教育や観光分野等と新たに事業を開始できたが目標値には至らなかった。										
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7	
-		—				目標						
実績												
達成状況とその理由												

施策実現のための課題	施設の経年劣化、老朽化が進んでおり、今後も計画的な大規模修繕や設備更新の実施が必要である。また、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたことで文化芸術活動が再開される傾向にあるが、他分野との連携をより一層進めるため、関係部局や指定管理者等と連携し、新たな事業展開を行う必要がある。	課題を踏まえた今後の取組	引き続き、ベガ・ホールのオルガンコンサートや、文化創造館の展示事業等、施設の特徴を活かした芸術文化事業を実施するとともに文化創造館、文化芸術センター、手塚治虫記念館との3館連携による取組を継続し、観光や産業の視点も取り入れながらエリア一帯で「宝塚文化の創造・発信」を図っていく。また、大学と連携したアウトリーチ事業や、市内商業施設等に設置したストリートピアノの活用など、様々な分野との連携に取り組む。
------------	--	--------------	--

行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外
-----------	--------------

施策評価表											
施策分野	6-5 文化・国際交流										
めざすまちの姿	<p>○多くの人が日々の暮らしの中で文化芸術や歴史に親しみながら、心豊かに暮らし、その魅力がまち全体で発信されている。また、文化芸術と福祉や教育、産業などとの連携が進んでいる。</p> <p>○国内外の人々との文化交流が広がるとともに、異文化を認め合い、共に生きる多文化共生社会の形成が進んでいる。</p>										
施策	(4)歴史や文化、習慣の違いを認め、尊重する地域社会の構築										
総合戦略での位置付け	-									-	
施策の方向性	<p>○多文化共生や異文化相互理解を推進します</p> <p>○インバウンド・アウトバウンドなどで国際理解を推進します</p>										
施策を構成する主な事務事業	国際交流事業					国際・文化センター管理運営事業					
担当部局評価	A	評価の理由	新型コロナウイルス感染拡大防止対策による施設の利用制限が緩和されたことにより、日本語教室や日本語個別指導、生活相談等の外国人支援事業を計画どおりに実施することができた。また、感染拡大防止対策に十分に配慮しながらギャラリーなどの利用拡大に努めた結果、利用率についても目標値を達成することができたため、A評価とした。								
成果指標	①	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		外国人支援件数	↗	件	1,428	目標	1,543	1,698	1,868	2,055	2,260
		実績	1,219	2,131							
	達成状況とその理由	昨年度は新型コロナウイルスの影響を受け、やむを得ず一部休講したが、今年度はその影響が緩和された。また、学習支援事業の対象を母国語(ポルトガル語)に限らず、外国にルーツを持つ6~18歳の子どもたちへの日本語指導や学校の勉強の支援を行ったことで、年間24回、延べ44人の参加があったため、目標値を大きく達成した。									
	②	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
		国際・文化センターの利用率	↗	%	-	目標	45	50	55	60	62
		実績	48.1	52.8							
	達成状況とその理由	昨年度に比べてコロナ対策による施設の利用制限等が緩和され、会議室やギャラリーの利用が増加したため、目標値を達成した。									
	③	指標名	めざす方向性	単位	現状値(R2)		R3	R4	R5	R6	R7
-		—			目標						
実績											
達成状況とその理由											
施策実現のための課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、多言語による情報提供を始め、日本語学習、生活相談等の外国人市民支援の必要性は増している。また、既存事業については、内容の見直しを含め、市民のニーズに合った柔軟な事業展開が必要である。			課題を踏まえた今後の取組	外国人支援事業については、宝塚市国際交流協会による日本語教室や個別指導、生活相談等をはじめ、外国にルーツを持つ子どもたちのための日本語学習支援や教科学習支援、そして、市内に在住する外国人市民に対して、日本語学習支援事業や生活相談を行う市民団体に対する補助金支援事業など、外国人市民に寄り添ったきめ細かい事業の充実に努める。その他の事業については、市民ニーズを的確に捉えながら内容を見直し、より多くの市民が参加・利用できるように新たな事業展開を図る。						
行政評価委員会評価	令和5年度外部評価対象外										